

くすねの里だより

第二十三号
冬を彩るサザンカとツバキ

このところ残暑が長引くことが多く、夏が終わるといきなり冬が来るような感じがします。春は花粉が怖いので穏やかで過ごしやす秋を楽しみにしている身にはちょっとさみしくもあります。冬は寒くていやだと言う人もいるかと思いますが、暖かい服と気密性の高い建物を持つ現代人には昔の人のような苦勞はなくなったのではないのでしょうか。むしろ暖かいお風呂に入りこたつで鍋をつつくというような至福なひと時は、冬が寒ければ寒いほど幸せを感じるものです。

寒くなるこやりたいなと思うものにたき火で焼き芋というのがあります。昔前までは庭や畑の片隅で落ち葉や枯草を燃やしたのですが、最近では消防法が厳しくなったためそれができません。垣根の曲がり角で落ち葉焚きなんていうのは歌の中の世界だけになってしまいました。

そんな懐かしい光景を歌った童謡『たきび』の2番には『さざんかさざんかさいたみち』と出てきます。落葉舞う季節を彩る数少ない花のひとつサザンカは、地域差もありますが秋が深まったころから春の初めまで、ピンクや白の花が咲き続けます。

そんなサザンカから少し遅れ、桜が咲く頃まで咲き続ける花にツバキがあります。ツバキも冬の花として愛され、多数の品種が作出されています。ツバキの花は蜜をたくさん含んでいるため、花が咲くと甘い物好きのメジロやヒヨドリが蜜を求めてたくさん集まってきます。夏であれば蜂や蝶が集まってくるころでしょうが、鳥が集まるなんていうのは冬ならではの光景とも言えるでしょう。

ところでサザンカとツバキは同じツバキ科の植物なので、葉や花が似ている区別がつかないという方もいるかと思えます。大きな特徴としてサザンカは花びらが1枚ずつバラバラに散り、ツバキは咲いていた時と同じ形のまま首元からポロリと落花します。葉はツバキの方が大きくてつやつやしており、サザンカは葉の周りのギザギザが多く、葉の付け根部分に毛が生えるなどの違いがあります。が、そんなに研究しなくても、花の時期にきれいだなーと思えば、それで十分じゃないでしょうか。

椿の花は首ごと落ちる様が縁起が悪いとして嫌われることもあります。山の小道に落ちる椿の花はそれは美しく風情もあるのでそんな素敵な道も見つけたときは、椿の花を踏まないように気をつけながら優雅な気分を歩いてみましょう。



椿の品種は非常に多く、茶花に好まれる仲助や葉の先端が三つに分かれる金魚のように見える錦魚葉(きんぎょは)椿など、日本作出だけでも二十種以上に及びます。



椿は日本原産の植物で、椿の種子から採取した椿油は食用や整髪料として古くから使用されています。椿油は高価ではありませんが、オレイン酸を多く含み、動脈硬化の原因となる悪玉コレステロールを下げる働きがあるというので、お料理にぜひ取り入れたい食品のひとつです。

